

手から手へ・・・もてなす心と笑顔が集うえびすさまの里

大分県別府市明礬温泉「えびすや旅館」 女将 本田 麻也

世界第二位の温泉湧出量を誇る大分県の「別府八湯」。その中で、最も標高の高い場所に位置するのが「明礬温泉」です。

江戸時代前期、渡辺五郎右衛門という人物が別府で初めてミョウバンを作りました。当時、ミョウバンは染物の色を鮮やかに染め出す染料として、また止血や下痢止めの薬としても重宝されていました。

現在でも、わらぶき屋根の「湯の花小屋」が建ちならび、昔ながらの共同浴場が点在する温泉風情あふれる明礬温泉は、国の重要無形民俗文化財（平成 18 年）に指定されており、優れた温泉効能と歴史をもつ最高の温泉地として、今日も多くの人々が訪れる癒しの地として人気があります。



ここ最近、明礬温泉では“町おこし”を、みんなで手を取りあってやっていこうと次世代へ継承しているところです。地域活性化のため、地域資源を大切に見直すことを目的とした、初めての明礬温泉町歩きイベントを5月に開催…名づけて「十いち地蔵のおせったい」は昔から伝わる行事のひとつをベースに、地域の人々と旅館街が一体になって取り組んだものです。

町に昔からあるお地蔵さまに手を合わせ地の恵みに感謝する。よそからいらした方々がお地蔵さまに「手」を合わせたら、お地蔵様が「よう来たなあ〜！とお礼にお菓子やおにぎりを手渡した」そんなおもてなしを心から伝えようと。



今回は「手」がテーマです。お地藏様に「手」を合わせて感謝する。町のみんなで「手」をつないで何かをする。ひとりの力より、ふたりの力、ふたりよりも…何よりも大切なことは、町のみんなで楽しく作業をしていることが町全体を明るく楽しくするということ。そこに通りかかった方々が、気になり足を止める…そんな小さな事や日常の事を、みんなで言う「笑顔で楽しい町づくり」に一歩踏み出しました。



私が継承した「ゑびすや旅館」は、明礬温泉で一番古いお宿で創業は明治7年です。

ずっとずっと昔、ひいおじいちゃんが見た夢…「ここに人々が安らげる場所をつくりなさい」そうゑびす様がお告げになりました。朝になると家の大きな柱に、にっこりほほ笑むゑびす様が現れていたのだそう。

ひいおじいちゃんの夢から、今日まで引き継がれている温泉旅館は、昭和20年代明礬温泉大火災で全焼。当時の女将、私のおばあちゃまが建て直し受け継がれてきました。



そんな湯宿は、平成17年温浴施設「湯屋ゑびす」の設立とともに、レトロモダンな宿づくりを目指して新たな時代を刻みはじめています。

外観は、明礬温泉に溶け込むイメージを残しつつ、およそ外からは創造のできない斬新な内装にこだわった、癒しの空間がそこにはあります。





「明礬の風と香りと天地の恵み…
心と体をゆるりゆるりとほぐしてくれる。
うふふふ ふふふ 湯気のむこうはえびす顔」



大分県 別府市明礬温泉

えびすや旅館

〒874 - 0843

大分県別府市明礬町 4 組

Tel : 0977-66-0338